

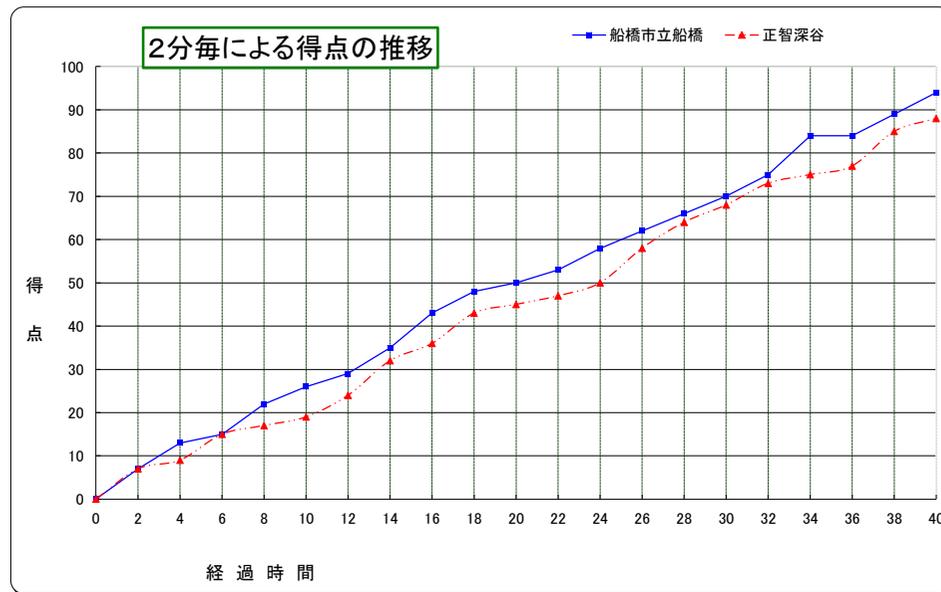
平成28年度第70回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会

平成28年6月5日(日)
深谷ビッグタートル
Aブロック決勝

チームA			チームB
船橋市立船橋 (千葉)	94	{	正智深谷 (埼玉)
		}	88
		26 1st 19	
		24 2nd 26	
		20 3rd 23	
		24 4th 20	

番号	氏名	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		スチール	アシスト	ブロックショット	ターンオーバー
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF				
4	石塚 周太	7	1	2	2	5	0	0	2	0	2	1	1	0	1
5	田村 伊織	19	0	0	9	16	1	1	4	4	11	0	8	0	1
6	増田 修大	4	0	1	2	3	0	0	0	2	1	3	3	0	2
7	赤穂 雷太	18	1	6	7	10	1	2	5	1	4	0	1	0	2
8	相川 大和	4	0	1	2	4	0	0	2	0	2	0	0	0	0
9	富澤 春輝	0													
10	島山 功	0													
11	島田 舜太	0													
12	兼重 パトリック	0													
13	保泉 遼	32	8	14	3	7	2	2	1	0	2	1	4	0	1
14	庄司 理宇	0													
15	三上 颯斗	0													
16	野崎 由之	10	2	7	2	4	0	0	0	2	3	0	2	1	2
17	大川 颯斗	0													
18	大澤 響生	0													
コーチ	近藤 義行									2	7				1
		94	12	31	27	49	4	5	14	11	32	5	19	1	10
		確率	38.7%		55.1%		80.0%			計 43					

番号	氏名	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		スチール	アシスト	ブロックショット	ターンオーバー
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF				
4	山口 颯斗	32	4	12	8	17	4	6	2	5	4	2	3	0	2
5	中島 修平	0	0	2	0	2	0	0	2	1	2	0	2	0	1
6	角田 憲信	0	0	0	0	4	0	0	0	1	1	0	1	0	0
7	増田 英寿	26	0	0	12	20	2	2	0	6	6	1	0	3	1
8	山口 大成	6	1	2	0	5	3	4	2	1	5	0	2	0	0
9	常田 耕平	9	1	4	3	5	0	0	2	0	3	1	1	0	1
10	中村 吏	0													
11	野元 啓太郎	15	1	2	6	8	0	1	1	1	1	1	2	0	2
12	川口 颯太	0	0	2	0	1	0	0	1	2	2	0	1	0	0
13	田中 翔真	0													
14	阿久津 瞬	0													
15	渡邊 圭吾	0													
16	國分 大雅	0													
17	早川 童生	0													
18	勝山 大輝	0													
コーチ	成田 靖									3	7				1
		88	7	24	29	62	9	13	10	20	31	5	12	3	8
		確率	29.2%		46.8%		69.2%			計 51					



戦評

地元開催でAブロック初優勝を狙う正智深谷と3年ぶりの優勝を狙う市立船橋の決勝戦。

第1P 両チーム共にハーフコートマンツーマンディフェンスで始まる。市立船橋#16の3p、正智深谷#4のジャンプシュートが決まり、決勝戦らしく集中した雰囲気となる。最初に主導権を取ったのは市立船橋で、#7のフックシュート、1対1からのドライブイン、#16#5のゴール下への合わせなどでリードする。正智深谷は#7が3連続でジャンプシュートを決め、#4のゴール下、#7の速攻で15対15の同点に追いつく。正智深谷は#4が果敢に1対1を試み、2連続でドライブインを決める。市立船橋は#7が中外バランスよく攻め、1対1からフックシュート、3pを決め、ラストプレイでハイビックからブザービートでジャンプシュートを沈めて26対19市立船橋リードで終了。

第2P 開始早々激しいルーズボール争いで両チームとも次々とフロアにダイブし、会場を沸かせた。7点差を追う正智深谷はディフェンスを1-1-3ゾーンに変え、市立船橋の高さに対抗する。市立船橋は#4#13がゾーンの外から3pを決めるが、正智深谷もオフェンスリバウンドを頑張り、#4#7がゴール下で決め返す。正智深谷の途中出場した#11がドライブインを2本決め、3点差まで追い上げる。ここからお互いに入れ合いの展開となり、市立船橋の#13が3pを3本連続で決めると、正智深谷#7が高確率のジャンプシュートとリバウンドで3連続得点する。一進一退の攻防が続き、市立船橋は#5がゴール下で踏ん張り、正智深谷が#11のドライブインで返す。少し差を縮めて50-45市立船橋リードのまま前半終了。

第3P 正智深谷は3-2ゾーンに変え、リバウンドやスティールからの速攻が出るが、市立船橋は#13#16の3pで差を詰めさせない。正智深谷の#11がスティールからの速攻で4点差としたところで市立船橋のタイムアウト。市立船橋はゾーンの真ん中を#5が攻めるが、正智深谷が#9の1対1、#4のリバウンドシュートで食らいつき、#8の3pが決まり、残り2分でついに同点に追いつく。市立船橋は#7がゴール下のシュートを決めるが4ファウルとなってしまい、不安を残す形となる。70対68市立船橋リードで終了。

第4P 正智深谷は1-1-3ゾーンに戻すが、市立船橋の#13が3連続して外から射抜き、#5がハイポストからのジャンプシュートで再び差を広げる。正智深谷は#11がキレキレのドライブインや3pを決めるが、チーム全体でその後のシュートが落ち続ける。正智深谷#4#7がゴール下で合わせるのに対して、市立船橋は#5#7もゴール下で合わせ、お互いインサイドでの決め合いとなる。残り2分、正智深谷の#4が連続して3pを決め4点差としたところで市立船橋がタイムアウト。正智深谷#4が4ファウルの市立船橋#7を攻めたてファウルアウトに追い込む。フリースローの後からオルコートでプレッシャーをかけるが、捕まえられず、さらに市立船橋#13がこのゲーム8本目の3pを遠い位置から沈め、4点差から7点差へとする。正智深谷は最後までボールを追いかけるが市立船橋が冷静にボールをキープし、94対88で市立船橋が3年ぶりの優勝を飾った。

記録者:伊澤 暁

Ref	稲葉 威	1st U	渡邊 諭	2nd U	石田 祐二
-----	------	-------	------	-------	-------